法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-09

水都アムステルダム : 歴史的経験と未来へのチャレンジ

樋渡, 彩 / 岩井, 桃子 / 細川, 雅紀 / Ruyven, Kees van / 稲益, 祐太 / 根津, 幸子 / 榮, 美奈

(出版者 / Publisher)
法政大学大学院エコ地域デザイン研究所
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
205
(発行年 / Year)
2007-03

水都アムステルダム
―歴史的経験と未来へのチャレンジ―

Water City Amsterdam
- past, present, and future -

編著：　岩井桃子　＋　ケース・ファン・ラウフン　＋　根津幸子
樋渡 彩　＋　細川雅紀　＋　稲益祐太　＋　榮 美奈

Authors & Editors : Momoko Iwai + Kees van Ruyven + Yukiko Nezu
Aya Hiwatashi + Masaki Hosokawa + Yuta Inamasu + Mina Sakae

発行：　法政大学大学院エコ地域デザイン研究所
東京キャナル・プロジェクト実行委員会

Publishers : Laboratory of Regional Design with Ecology,
Graduate School of Hosei University
Tokyo Canal Project planning committee

はじめに

オランダは、Nederland（オランダ語で「低い土地」を意味する）の名前の通り、低い湿地帯に人々の大変な努力によって国土を建設してきた。海面よりも低い土地に、ダイク（堤防）を築いて洪水から守り、その内側にポルダー（干拓地）を形成してきた。１６世紀以後、風車が普及し、水を掻き出すことが容易になって、こうした低地での都市建設が加速したのである。

オランダはこうして技術力を有効に使い、計画的に都市を建設するセンスを早くから育み、現代に至るまで都市づくりの先端的な成果を常に挙げてきた。水辺都市の歴史とその再生への現代の課題を研究する我々、法政大学大学院エコ地域デザイン研究所（以後、「エコ研」と記述する）にとっても、オランダは極めて重要な研究対象である。

本報告書は、そのオランダでも最も重要なアムステルダムを取り上げている。中世から形成を開始し、17 世紀に大きく発展したこの都市は、江戸の形成発展ともよく似た面をもつ。実際、江戸東京博物館において 1996 年秋に考古学者の小林克氏が中心となり、アムステルダム・江戸・ニューヨークを比較した興味深い展覧会が行われた。

イタリア･ルネサンスの理想都市の発想、技術も取り込み、東インド会社の活動を背景とする経済繁栄のもと、目覚ましい都市形成を実現した「水の都市」アムステルダムの前近代の歴史については、幸い、私の研究室で学び、デルフト工科大学に留学した岩井桃子さんが深く研究し、修士論文でその成果をまとめた。それをさらに練り上げた内容が、本報告書の１章をなす。

アムステルダムは、現代の水辺都市の再生の観点からも、とりわけ東京のベイエリアの問題に取り組む我々にとって、大きな示唆を与えてくれる。幸いエコ研として、オランダとの交流をこの間、深めることができた。東京キャナル・プロジェクト実行委員会のメンバー、田島則行氏、寺田真理子氏らとともに、エコ研が、2005 年５－９月に開催されたロッテルダ国際建築ビエンナーレ展に招かれ、水の都市・東京の展示を行う機会があった。それが切掛けとなり、2005 年 10 月に、株式会社大塚商会の特別協賛のもと、国際シンポジウム「東京エコシティー水の都市の再生に向けて」が実現し、アムステルダムから、市の都市計画局の責任者、ケース・ファン・ラウフン氏を招いてアムステルダムの歴史と現在の都市づくりに関する興味深い講演をいただいた。その内容が２章にまとめられている（翻訳と編集は岩井桃子）。

さらに、東京との比較の意味もあって、アムステルダムのベイエリアの近代における工業、港湾ゾーンの形成、そしてポスト工業化の現在における新たな都市づくりの状況について、岩井桃子さんがエコ研の活動として独自の調査研究に取り組んだ。その成果が３章にまとめられている。なお、ロッテルダ国際建築ビエンナーレ展の我々の仕事にとっての現地協力者だった根津幸子さんには、「水の都市」アムステルダムの象徴、ボートハウスに暮らした体験をエッセーとして執筆していただいた。

本報告書は、こうした背景のもとに出来上がった。オランダとの交流を一緒に進めてきた法政大学大学院エコ地域デザイン研究所と東京キャナル・プロジェクト実行委員会とが共同でここに刊行するものである。

最後に、オランダとの交流を深める場となった国際シンポジウム「東京エコシティー水の都市の再生に向けて」の特別共催をして下さった株式会社大塚商会の大塚実会長に心より感謝の意を表したい。

法政大学大学院エコ地域デザイン研究所
所長　陣内秀信

Page	Title	
2	はじめに　Forward	陣内秀信
7	１．アムステルダムの成り立ち　History of Amsterdam	岩井桃子

はじめに
第１章　都市形成史
１．初期のアムステルダム
２．中世の都市空間へ
３．大きな時代の変化の渦の中へ
４．ヨーロッパ交易の頂点と都市の拡大
５．絶頂期のあと
第２章　不整形街区から整形街区へ　その空間構成へ
１．不整形街区
２．都市計画術の芽生えと確立
３．整形街区　～第一期目～
４．高密度な空間を持つヨルダン地区
５．整形街区　～第二期目～
第３章　アムステルダムにおける都市住宅
１．アムステルダム都市住宅の基本型
２．基本型からの発展
３．新しいプロトタイプの出現
４．ハウトマン通り 20 番地　～集合住宅タイプ～
第４章　各街区内に存在する建築例
１．旧教会前の花屋さん　～ヴァルムス通り 38 番地～
２．ピューリッツァー街区
３．ルーフテラスのある家
～リンデン通り 72 番地（ヨルダン地区）～
４．馬車道と運河に挟まれた都市空間
おわりに

103	２．水辺回帰 ―ウォーターフロントは都市の知恵を明示する Back to the water –The waterfront manifests the wisdom of the city	ケース・ファン・ラウフン

はじめに　堤防より後ろにいるオランダ人
第１章　洪水：「水」を未来に対する課題として管理すること
第２章　水都アムステルダム
第３章　水：アムステルダムを流れる青い「金」
第４章　開発戦略とプロセスマネジメント
第５章　アムステルダムのウォーターフロントの構成
プランから実現まで：４つの事例をもとに
１．東部港湾地区：
古い港が住宅問題を解決する（1970 ～ 2000）
２．アイブルグ地区：
水上の夢の島が実現した（1965 ～ 2025）
３．アイ川南部河岸プロジェクト：
町にとっての新しいウォーターフロント（1985 ～ 2010）
４．アイ川北部ウォーターフロント：
選択可能な都市生活（2000 ～ 2030）
おわりに　アムステルダムのウォーターフロントへ人々を誘う

153	３．アムステルダムの水辺を探る旅 Waterscape of Amsterdam	岩井桃子 根津幸子

はじめに
第１章　水とともに生活する都市
１．行き続ける水上交通
２．水辺からアムステルダムを見る
３．ユニークな水管理方法の一例
４．アムステルダム水上生活　（根津幸子）
第２章　水上のまち
１．アムステルダム市の都市開発
２．オランダにおける自治体と建築家との関係
第３章　水辺に生み出される街
１．アイブルグ地区
２．アイ川南部河岸プロジェクト

185	４．水都・東京を考える　Thinking of water city Tokyo ～国際シンポジウム「東京エコシティ」レポート～ Report of international symposium “Tokyo eco-city”	樋渡彩 細川雅紀 稲益祐太 榮美奈

シンポジウムの背景
プログラム
１０月１５日　基調講演レポート
パネルディスカッションレポート
１０月１６日　トークレポート
Ｅボートパレードレポート

203	おわりに	岩井桃子